

# 第4回千代田 Web 図書館セミナー

『千代田Web図書館を利用して  
「継続的英語学習法」を学ぶ』

ハイペリオン(株)英語キャリア教育研究所  
所長 深川善孝

# 1. グローバル社会で企業が求める英語コミュニケーション能力とは？

- ・TOEICスコア 860点以上
- ・TOEFL PBT 600点以上
- ・英検準1級以上

## ＜企業が進める人材育成対策＞

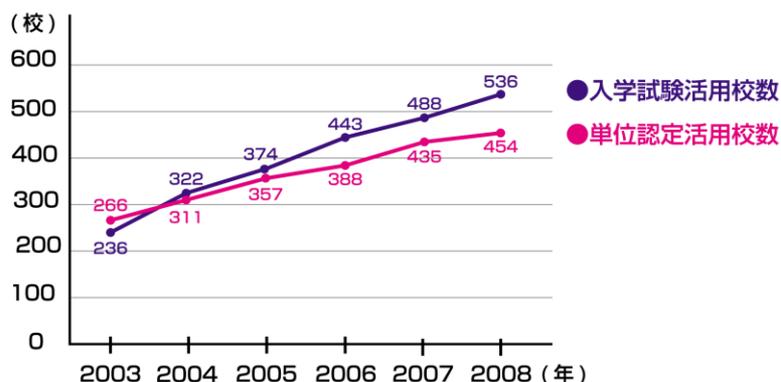
- (1) 就職条件： TOEIC®導入団体は約2,700社  
(企業・国家公務員・教職員)
- (2) 昇格条件： 多くの企業が昇格や人事考課に英語コミュニケーション力を重視
- (3) 社員研修制度(能力主義・成果主義が一般化)
- (4) 英語を社内公用語に: 楽天、ユニクロなど
- (5) 外国人社員(新卒者)の採用増加

## 2. 大学における英語資格テストの活用状況

グローバル社会に活躍する人材育成を目指して  
今、大学は大きな変革を進めています！！

- (1) AO入試・特別推薦入試が増える(英検、TOEIC、TOEFL等)
- (2) 単位認定制度の導入(英検、TOEIC、TOEFL等)
- (3) 習熟度別クラス編成へ (企業・社会が求める英語力とは)

### 大学におけるTOEIC®の活用状況

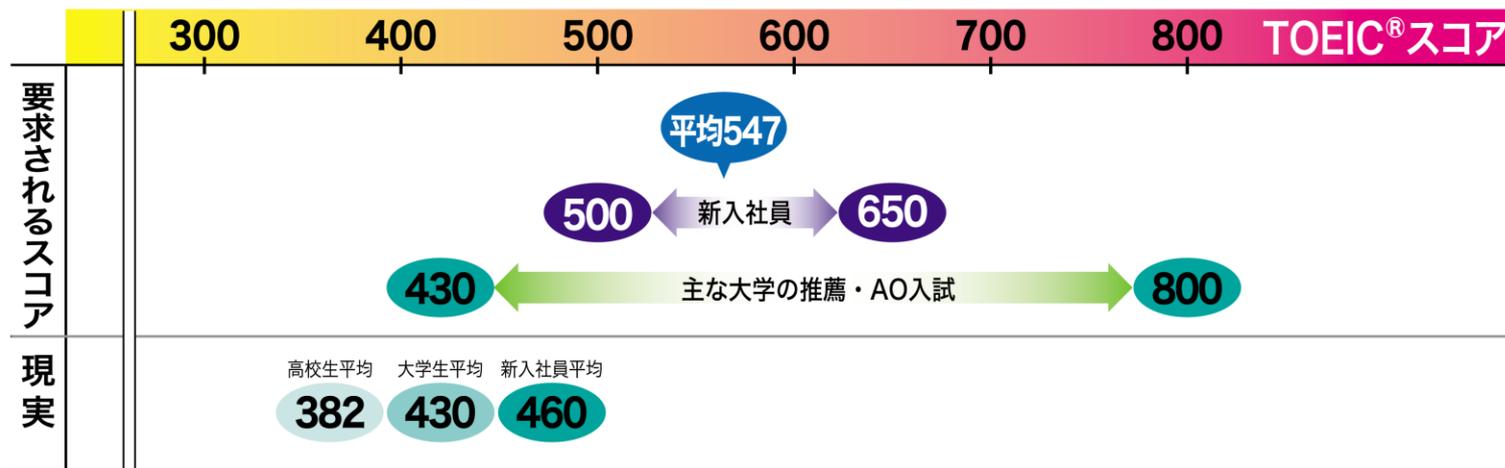


主な大学での入試活用

大学名	試験方式	TOEICスコア
早稲田大学	自己推薦入試	800
学習院大学	自己推薦入試	730
青山学院大学	AO入試	730
立教大学	自己推薦入試	730
中央大学	自己推薦、公募推薦入試など	640~700
明治大学	自由選抜入試など	520~770
上智大学	推薦、指定校制推薦入試	500~700
駒沢大学	公募推薦入試	480~600
日本大学	一般推薦、AO入試など	445~600
法政大学	専修、特別入試など	430~820

### 3. 現実と期待のギャップを埋める実践的なアプローチとは

#### 社会が要求するTOEIC®スコアと現実のスコアのギャップ



(1) 英語学習の明確な目標設定が必要

(2) 現在の英語力を的確に把握することが重要

(3) 知識を運用能力に変換するには → 学習からトレーニングへ！

## 4. 千代田 Web 図書館で継続的英語学習法を作成する

千代田Web図書館に収録されている音声やビジュアルコンテンツ付の電子書籍や英語教材を活用して、自分のレベルに適した「英語コミュニケーション力アップのカリキュラム」を作成し、継続した独自のセルフトレーニングコースを作ることができます。

＜カリキュラム作成の手順＞

- ① 自分の現在の英語力を測る為、テストを実施（各模擬テスト受験）
- ② 自分の弱点をテスト結果から把握し、克服する為の教材を検索し、トレーニングスケジュールを作成します。（貸し出し期間と学習時間を検討）
- ③ トレーニングスケジュールに沿って、セルフトレーニングを実行する
- ④ トレーニング成果を確認する為、テストを実施
- ⑤ 上記 Plan → Do → Check を継続する

英語コミュニケーション力をアップするには、「多聴」、「多読」で受容語彙を増やす。「シャドウイング」、「オーバーラッピング」、「ディクテーション」などが効果的学習法です。

## Listening

「全ての母語は聞くことから始まる」

初級者から上級者まで、4つの技能全ての習得に効果が大きく不可欠です。音の変化への対策をはじめ、聞き取れるように工夫しました。最初は音の変化や知らない単語など、わからない部分を減らしていく段階が続きます。

聞き取るスピードを上げることも大切です。聞きながら綺麗な日本語に翻訳するよりも、あえて英文の語句順通りに意味を理解していく指導も行います。

## Shadowing

リスニングしながら少し後れて発話します。まずは英文を見ながら行い、次に英文を読まずにできるようにします。

ネイティブの発話の真似をすることが、聞き取る力を驚くほど引き上げます。もちろん、何も見ずに聞こえてくる英文だけを追いかけられるようになることを目標にします。

シャドウイングが滑らかにできるように英文を記憶することも英語力を大きくアップさせます。

## Overlapping

リスニングしながら同時に発話します。シャドウイングに比べて難しく思われますが、実際に行うと大きな差はないはずです。

スピードは英語力の大切な要素です。ネイティブの発話を真似るポイントの内、スピードや音の変化をより確かめやすく

早く確実に上達できます。英文を記憶すればするほど上手くできるようになります。

そうすれば、やはり英語力を大きく伸ばすことができるのです。

## Dictation

4つの中では最も負担を大きく感じるメソッドですが、だからこそ効果や達成感もとても大きいトレーニングです。英文の習得を一番期待できる必須のメソッドです。英文の音声とボキャブラリーと構文を咀嚼した上で書き取ります。最初はリスニングしながら英文を見て正確に書きます。そして、見ないで書き取れるようにトレーニングを重ねます。身についてなかった、あるいは知らなかったボキャブラリーや表現を明確に把握できます。

そして、書き取ることで新しい知識や不足した情報を確実に習得できます。